

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	(株)やま		
事業所名	グループホーム うらびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384-3		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172400257-00&PrCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅改修型のホームでありながらゆとりのある各居室、床の間付きの和室、食堂兼共用ルームも広く家に住まう感覚があり馴染みやすい。秋には「秋桜祭り」を開催しバザー、催し物を地域の方々と一緒に楽しみ開かれた施設を目指している。手作りの食事で温かい家庭の味を提供し、四季折々の行事食にも力を入れている。外出散歩ドライブ等外に出かける機会を定期的に持ち、地域との交流としてサロン活動、隣組行事に出かけ昔ながらの地域の人とのつながりを大切にしている。住み慣れた地域でその人らしい生活の継続のためにその方の生活歴を大切に、認知症の方の心と身体、生活環境を包括的にとらえ寄り添うケアを目指している。医療ニーズへの対応強化に訪問看護師を配置し体調管理サポート、24時間緊急連絡体制で安心して生活して頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家を改修した事業所は、自宅で過ごしているのと変わらぬように布団を敷き昼寝ができるようにしたり、床の間に季節の花や作品を飾ったりして、畳や木のぬくもりを活かした工夫をしている。畑作業・大工仕事・裁縫・料理等を職員も得意な分野を活かし、利用者の生きがいにつながり支援をしている。コスモス祭りは、案内を作り新聞折り込みや各家庭に配布するなどして参加を呼びかけ、事業所を理解してもらう機会にしている。地域役員の協力を得て自治会・神社・寺院行事も利用者が招待され、参加しやすい関係にしている。系列事業所間で毎週管理者会議やケアマネジャー会議を行い、職員のレベルアップと共に地域に開かれた事業所独自のサービスへとつなげている。開設以来の馴染みの職員も多く、利用者の意向やペースを尊重した介護を提供している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の施設を目指し、職員から発案した理念『みんなで作ろうららの歴史』にそってまた毎年のスローガンを掲示、申し送り時の唱和をし、共有を図っている。	理念を基にスローガンを定めて、いつでも目に触れやすい居間に掲示し、申し送りに唱和することで意識付けたり、職員会議で話し合ったりしている。設立時に職員で決めた理念は、事業所としての拠り所とする基本の考えがわかりづらい。	地域密着型サービスの意義をふまえて、事業所独自の理念を全職員で再検討されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「うららびより新聞」発行で情報発信。また第2回目コスモス祭りを開催し、バザー、ポラ発表があり地域の方々に多数参加いただいた。小中学校との定期的な交流会、サロン参加、季節の隣組行事に参加している。	散歩や買い物時に住民と挨拶や声かけをして、野菜・果物・花等をもらっている。自治会・神社・寺院行事など清掃も利用者と一緒に参加し交流を図っている。コスモス祭りは案内を作り新聞折り込みに入れ近隣は手配りして交流の機会にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で地域の役員さんに認知症の理解と支援を周知いただける様お願いしている。独居宅巡回パトロールに参加し、地域での働きがけをしている。認知症カフェの開催を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、行政・地域代表、利用者家族に出席していただいている。会議参加者の提案に応え、ホーム情報の発信に取り組んでおり、ご家族から「困っておられる方がいる」との情報も寄せられている	会議では事業所の実情報告や行事予定などを含めた話し合いを行っている。地域は高齢化率も高く独居老人も多いので、行事に招待するようにしている。役員からの意見で、地域行事の招待を受け利用者が参加しやすくなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町住民課、包括、在宅支援センターとは常に連絡、情報交換しあい現状を把握してもらい、アドバイスを受けている。	管理者は町主催の会議に参加時やメール・電話で情報交換している。書類提出や「たより」持参時に事業所の現状を担当者に伝え、法制度の解釈など必要時に相談している。認知症カフェの場所提供等の協力関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアをホームの方針として取り組んでいる。拘束の理解、それによって利用者が受ける。弊害についても理解し、その上で利用者の状態に合わせ対応に注意を払っている。	帰宅願望の強い利用者には、気分を変える話題にしたり外気に触れるように一緒に外に出たりしている。ベッドから転落の危険がある人には、床にマットや布団を敷き安全にも配慮し対応している。身体拘束をしないように会議や個々のケースで話し合い、望ましい関り方を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待防止の徹底に取り組み、倫理と行動、認知症ケアの倫理について勉強会を行い常に虐待とは何かと自問し、自他ともに見過ごすことのない様努める。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様が入居され、関係者と話し合い連携を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族が理解納得し入居できるよう十分な説明を行い理解していただけるように努めている。法改訂の際には書面で通知承諾を得る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時、運営推進会議等で、利用者、御家族の意見を聞けるような場を心がけており、又定期的に利用者家族との面談の時間を設けたり、随時相談報告をするよう努めている。	面会時に必ず声かけし意見や希望を聞いている。来所が少ない家族には、利用者の様子を知らせる手紙を添えて郵便で送付したり、電話やファックスで知らせたりして聞いている。リハビリをしたい等の意見があり取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員面談を通じ、意見を求め、反映させられる様にしている。	職員の役割分担表からの反省や目標で意見が出たり、毎月の職員会議で意見を出し話し合っている。営繕や備品購入については、管理者会議で上申している。布団干し・物干し場は、材料費のみで職員が作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が思っていることを実務し結果の如何に関わらず話し合い本人のレベル向上に努めている。又勤務の中で担当を決めることで自ら責任を持って働けるよう整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師による勉強会、資質向上の研修に参加、資格取得のための支援を行い、キャリアアップを図るとともに能力評価を行う。また新入社員にはOJT、OFFJT通じ一人ひとりの能力、力量を見極め向上のためトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不破郡の医師会主催の交流会に参加し、地域の事業者と交流する機会を得た。今後はネットワーク作り、またうららグループでの相互訪問等の活動で通じサービス向上に取り組みたい。		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や表情、言葉や態度を感じとりながら穏やかな表情、笑顔、言葉使いを心がけている。ご本人が話せる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人様と一緒に行動や見学に来て頂いたり、不安な事やご家族の要望などを意見を伺いやすい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時事情を伺う中で必要に応じて連携施設や他の事業所について説明、助言をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	また人の気配や温もりが常に感じていることの出来る穏やかな雰囲気や関わりを大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月のお便り写真等でご本人の様子が届くよう情報を入れている。ホーム行事にはご家族の参加を呼び掛けて一緒に過ごす時間を持っていただき本人と家族の繋がりを大切にしたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人、友人の面会時にはゆっくり過ごして頂くよう雰囲気作りにも心掛けている。居室で飲み物を飲めるようにしたりゆっくり過ごして頂けるよう工夫している。ホーム外のサロン活動等でなじみの方と会える機会を持てるよう支援している。	馴染みの寺や墓を聞き散歩コースとしている。散歩時に友人宅や自宅近くの畑に寄っている。携帯電話で話したり手紙を書いたりする人には、相手先や住所の確認をして関係が途切れないようにしている。家族の協力で理美容院や喫茶店に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の出来ること出来ないことを把握しその方の力が発揮できるよう支援し、相性や個性を観ながら席を配慮したり特定の間人間関係を大切にしながらも全体の良好な雰囲気を重視している		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば出来る限りの相談支援を行う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で思いや意向を聞き心に留めている。会話が困難な方に対しては表情やしぐさなど大切に観察している	職員が時間をかけて聞き、日々のケアや何気ない話から思いや意向を逃さないようにしている。困難な人には選択しやすい物を見せ、指差し・頷き・顔の表情などで把握している。家族から嗜好品や生活歴を聞いて推測する場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の詳しい状況を共有している。個人の生活歴を掘り下げる機会をもって安心して暮らして頂けるよう取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日2回のバイタルチェック、食事量、排泄チェックなどで体調の変化を把握し、異常時には訪看、ドクターと医療連携をとり対応している。毎月のカンファレンスなどで現状について話し合っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で気付いたことを話し合い統一したケアの提供に努めている。ご家族と面談、連絡など本人の状態を報告し今後についての話し合いをしている	家族の意向を聞き医師の意見も参考に職員で話し合い介護計画を作成している。担当が記録したケアプラン策定のための課題検討用紙に基づき、毎月全職員で話し合っている。体調変化時は随時見直し申し送りで伝達し共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録等にその日の様子や具体的な行動、言葉など記録しスタッフ間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の訪問リハビリや急変時の医療連携地域の方を招いてのコスモス祭り、イベントへの参加など地域との関わりを大切にしている		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小規模な事業所で多彩な機能を求めようとすれば社会資源を活用する必要があり利用者様の出来ることに応じて地域の協力が得られるよう働きかけを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医への受診は原則家族に依頼しているが状況に応じて職員が必要な支援(送迎、付き添い等)を行っている	協力医に変更する利用者も多いが、かかりつけ医を継続する利用者もある。その時は受診連絡表にて様子を知らせ、医師からも書面で指示をもらっている。希望にて訪問看護・訪問リハビリ・訪問歯科診療も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看1/W、訪問リハ3/W、ホーム訪問があり日常的に利用者の健康状態を把握に努めてもらっている。日勤職員がささいな変化を報告できる関係である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院時に向けて情報収集や医学的な対応の指示を受け再びの受け入れ準備を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の方針について相談していく中で予測される過程やホームでの「出来る支援」「出来ない支援」を伝え対応している	入居時に事業所の方針を説明しているが、年2回は家族面談を行い意向を確認している。体調に合わせて栄養剤やゼリー食の提供も行い、訪問看護で点滴を受ける人もいる。医師も交え家族・職員も一緒に何度も話し合い、情報を共有しながら看取りも希望する人にはかなえている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	なるべくスムーズに医療に繋げるよう急変時の対応マニュアル(連絡網)を貼り、全職員への周知を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年の避難訓練は消防署立会いのもとに夜間火災を想定して行った。	毎日の自主点検と共に毎月通報手順や防火器具の場所確認を申し送り時に行っている。食料・オムツ・毛布等の備蓄もある。消防署の協力を得て避難訓練を行い、実施後に所要時間や反省も踏まえ話し合っているが、住民の協力が得られていない。	夜間は特に職員体制が手薄になり、非常時に落ち着いて行動できるよう2階の人の避難誘導など、住民にも様々な機会に協力依頼されるように期待したい。

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様によっては強い口調や意に反した行動があるがそれに対し冷静に対応し他利用者への影響も配慮できる声掛け雰囲気作りを心掛けている。本人の性格や言動に否定的な対応をせず本人の本当の気持ちを汲み取り生活の支援を職員同士で共有し取り組んでいる	起床時間が遅れても利用者のペースを尊重し、職員はその人の思いを大切にしている。居室は利用者の空間であることを意識し、必ずノックし入室している。排泄や入浴時など肌が露出する時間は手早く済ませ声かけにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や食事等での言われる希望をしっかりと聞き取り次に繋げる生活作り、声で表現できない利用者も表情や行動で意思を感じ取り利用者全員で決め生活するという状況を作るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの体調、気分の変化に気を配りつつその人のペース流れに沿った生活を送れる様に心掛ける。希望があればそれに沿える様に考える		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服にこだわりのある方にはしっかりと自分で衣服のおしゃれが出来る支援を心掛ける。外出やホーム内の行事も増え特別な衣服(夏祭りでは浴衣等)といった楽しみが増えた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者によって食事の形態が異なる事が多いが全員で楽しく食事が出来る様、あまり違いが出ない様な工夫をする(形や味はあまり変えない)行事での食事や外食等が増え楽しむ利用者も増えた	事業所で作った野菜を使い、希望の献立にして食事時の話題にしている。利用者ができる下準備・盛り付け・片付け・梅干作りや干し柿作りなどを一緒に行っている。おはぎやお好み焼き作りをしたり、外食でうどんや寿司を食べたりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の推移や体調状況、嚥下能力を常に把握しそれに合った食事内容、量を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯に有無や一人一人にあった口腔ケアを把握し介助が必要であれば行っている。入れ歯の管理や洗面道具の定期的な清掃(週1回)も行い清潔管理につとめている		

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て排泄パターンを把握し出来ることはやっている	夜間ポータブルトイレを利用する人もいるが、日中はトイレ排泄を基本としている。排泄チェック表を参考にして、さりげなく声をかけトイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。尿量や時間によりパッドの種類を変え、布パンツの人は継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表から便の出てない日数を把握し排便の声掛けやマッサージをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせて気持ちよく入浴して頂いている。拒否のある方は声掛けに注意しながら入浴して頂いている	夕方からの入浴でゆったりと過ごせる時間になっている。固形石鹸や自分用のシャンプーを使う人もいる。嫌がられる人には職員が交代したり時間を変えたりしているが、脱衣場所を代えて成功した事例がある。体調で清拭や足湯で楽しむ人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操などをし体を動かして頂き、お昼からは布団やソファなど本人に合わせながら布団やソファなど本人に合わせながら休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法、用量などをしっかりと理解していく。症状の変化あれば報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみなど昔に行っていたことをやって頂き、外出したい方には施設内を散歩して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行っている。本人様に合わせて散歩している	利用者の希望で天気の良い日は車イスの人も一緒に散歩や買い物に出かけている。地域の協力を得て左義長や寺詣りに行っている。ドライブを兼ねて道の駅・花見・アジサイ見学・紅葉狩り等へ出かけている。敷地内で畑作業や布団干し・洗濯物干しなど外気浴する場合もある。	

グループホーム うららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお小遣いとしてホームにて預かり外出の時等、利用者の方の必要に応じてお金が使える様にお手伝いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話の使用もして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホーム、自宅での生活の延長と思える様な空間作りならびに手すり等安全にも気配りしている	玄関に鉢花を置き、敷地には野菜や花を育て季節感を出している。床の間にも花瓶に利用者が花を掛け、作品で壁飾りを掛けている。居間や廊下で自由にソファに座り新聞を読み会話している。日に2回換気し空気清浄器を置いて環境に配慮し居心地良く過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外に、ソファ等を各所に多数配置お好みの所で過ごして頂ける		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使いなれた道具着なれた服を持ってきて頂き使用してもらっている	馴染んだ家具やイスを持ち込み、時計や服・帽子を掛けている。居室に花や作品を飾り、家族写真を置いて自分らしい居室にしている。ベッド柵には、職員が手作りのカバーを掛けて肌さわりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には手すりを設け、どの利用者も自由に自力歩行出来る様にホーム内にエレベーターを設置し見守り支援している		